

# 看護実践・キャリア支援センター通信



2024年  
10月

## 看護基礎教育 看護学生へのキャリア支援プログラム(1・4年生)

# Vol.28

看護実践キャリア支援センターでは、看護学科生に看護の専門職としての生き方を考えるプログラムを行っています。

今年度も4月1日に4年生対象に就職に対する心構えとして、「奈良県での就職に関する説明」と「社会人としての基礎」の講演を行い、奈良県看護協会の飯尾美和会長に、地元の医療体制や、辛い時の相談先についてお話しいただきました。4月2日には新入生対象にした入学時オリエンテーションで、石飛悦子看護部長が看護の現場で働く者の思いについて語りました。

話の中からこれから先、何かの折りに思い出せる種を拾っていただけることを願っています。



奈良県看護協会 飯尾美和会長から  
奈良県の看護の現状を伺う

## 看護実践教育 令和6年度 特定行為研修



開講式の様子



人工呼吸療法 シミュレーション演習

特定行為研修は、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技術の向上を図るための研修です。本学も平成27年度から特定行為研修を行っており、今年度は急性期コース4名、慢性期・在宅コース11名の受講生を迎えました。

4月9日に開講式を行い、eラーニング学習や医大の教授・本研修の修了生等、それぞれの分野の第一線で活躍する指導者から直接学ぶ演習、実技試験

(OSCE)も無事終了しました。今後、10月から急性期コースは附属病院で、慢性期・在宅コースは県内の協力病院での臨地実習が始まっています。研修生は臨床での経験を積み重ね、修了までに「特定行為」を実践する力を身につけていきます。

看護実践・キャリア支援センターでは、無事修了できるよう、これからも受講生をサポートしてまいります。

**【令和7年度受講生募集 10月28日まで】**



## 看護研究事業 附属病院看護職への「看護研究特論」聴講

看護実践・キャリア支援センターでは、設立当初から大学と協力して看護職の研究のサポートを行っていました。

今年度、試験運用として附属病院勤務の看護師の希望者に、医学部看護学科の「看護研究特論」(R6.4.10～5.1 全8回中7講義)を聴講させていただけることになりました。

延べ77人という予想を上回る受講があり、研究への関心と意欲を感じる嬉しい結果となりました。受講後のアンケートでは、「量的研究で数値をどのように扱って結果から分析し、それが看護に繋がるのか分かった」「日々の看護から研究

につなげるきっかけを考えると出来た」「論文の読み方が分かった」など今後活用できるといった内容が多く見られました。また個別相談を希望する人もいたことから今後の共同研究に繋がる可能性も感じられました。

今回の聴講をきっかけとして、日々の看護実践の中から看護研究につながる気づき(研究の種)をみつけて実際の研究に繋げていってほしいと思います。

受講者数(「看護研究特論」全8回中7回分)

授業内容	受講人数
1. 看護研究の意義と研究のプロセス	8人
2. 研究課題と文献検討	9人
3. 文献検索の方法	
4. 研究デザインおよび研究計画書	14人
5. 看護研究における倫理	11人
6. 量的研究	12人
7. 質的研究	12人
8. 研究成果のまとめと発表方法 英語研究論文の購読	11人
延べ	77人

## 地域貢献事業 「災害医療のキホンのキ」



6月8日に、DMATや日赤救護班、災害支援ナースとして海外派遣の経験がある附属病院高度救命救急センターの南田哲平さんを講師に災害医療の研修を実施しました。

近年、自然災害が頻発しています。附属病院含め奈良県からも災害時に多くの看護職が派遣されています。その際、事前に必要な知識を持っていれば、現地でスムーズに対応することができます。研修では、災害医療の現状と基礎知識、衛星電話等やトランシーバーを使用した情報伝達の方法、収集した情報の整理方法等について学びました。また、START法を使用して4つの区分に分けるトリアージ演習も行いました。負傷者役もすることで、トリアージ区分の違いの理解につながりました。

また机上シミュレーションで災害時に看護職としての立場だけでなく、災害発生現場での「全体としてどう動くか」を考える視点も併せて学びました。

素早く対応するためには、クロノロジー(災害時の伝達手段)について等、災害時の情報管理が大切であるということに改めて感じた研修でした。



講師 南田 哲平さん



トリアージの演習

## 看護基礎教育 上級臨床指導者育成プログラム



上級臨床指導者育成プログラムは、実習指導者の専門性や教育力を高め、実習指導者を指導できる人を看護学科の協力を得て育成する1年間のプログラムです。今年度は4名が受講しています。

受講生は6月21日には看護学科の川上あずさ学科長と澤見一枝教授による「指導者とは 指導者を指導することとは」の講義と演習を、8月14日には看護実践・キャリア支援センターの吉川紀子師長からの研修の企画運営についての講義では、ふだん患者をケアする看護の視点で、研修を受ける人のことを考えればよいと、教えることと、看護の同形性について学習しました。大学の看護基礎教育の現状や臨地実習に来る学生のレディネスを知るために、看護学科の授業や演習にも入って頂いています。年明けには、1年間の学びを踏まえ受講生4名がこれから企画する研修を運営する予定です。

現場での課題をみつけ、自分たちで何をどう伝えるかを考えながら研修を作り上げていく過程で、看護と教育について深めていってほしいと願います。



現在の学生への対応と課題を知る



研修の組み立て方を学ぶ



## 看護基礎教育 看護学生へのキャリアデザインプログラム(2年生対象)



看護部長から「キャリア」について伺う



高橋 郁菜恵さん



中島 愉生さん

附属病院勤務の先輩の体験談を聞く

6月20日に、2年生を対象に看護部長から「看護専門職としてのキャリア」について、若手看護師から「実習に向けての心構え」についての話を聞く、キャリアデザインプログラムを行いました。

看護学科の2年生には病院での臨地実習があります。当センターでは実習が始まる前の学生を対象に、改めて看護職としての心構えを考える機会として、附属病院の先輩看護師のお話を聞いていただいています。

看護部長からは附属病院の看護師のラダー制度について、ジェネラリストや認定看護師等の看護職の働き方や継続教育についてお話がありました。奈良医大看護学科出身の2年目、3年目看護師のお二人からはこれから実習に行く学生に向け、自分の当時の思いや学生の頃の学習が、今の仕事にこんな風に活かしている等のお話がされ、実習を目前に控えている学生達も次第に真剣な表情になって話を聞いていました。



## 地域貢献事業

# 「いのちに寄り添う～看護の本質とは～」



講師：石垣 靖子先生



先生の語りに引き込まれました

9月7日に、北海道医療大学名誉教授 石垣靖子先生を講師に、看護のあり方を考える研修を実施しました。先生は看護教育の黎明期から現在まで、患者と向き合い、医療の現場で看護職としてどうあるべきかを考えつづけ、近年はそのご経験を積極的に発信されています。

看護によって「人間であること」を取り戻した話、死にゆく患者の思いに寄り添い続けた話、アメリカの NP から専門職としての意識の違いに気付かされた話、病棟でのトラブル時の話等、先生が語る物語に聴衆は心を揺さぶられ、改めて看護の力を思いなおすことができました。そして、患者を patient ではなく一人の固有の人間 person として尊重することの大切さと、これからの看護職が力を発揮していくためには、看護の本質、原点に立ち戻って考えることが必要と先生から元気をいただきました。「あなた自身を大切に。自分を大切にすることが患者を大切にすることに繋がります。」というメッセージで締めくくられた会場には、優しい空気に満ち溢れていました。



## 看護師特定行為研修 紹介

【令和7年度受講生募集 10月28日まで】

特定行為研修を受講した看護師は「手順書」という指示書に基づいて迅速な患者対応が行えます。e-ラーニングでの講義、対面での演習や OSCE 終了後、10月 から各実習施設で臨地実習を行います

### ■急性期・病棟コース

附属病院の集中治療部や高度救命救急センター、手術室等で、熟練した医師の指導の下、臨地実習を行っています。倫理的な視点について学べる独自のカリキュラムも導入しています。

### ■慢性期・在宅コース

県内の10の協力施設で臨地実習を行っています。各施設の指導者の元で、臨床での経験を積むことが出来ています。

その他 選択区分もあります。詳しくはこちら →



## 今後のセンター事業

☆「対人関係の心理学 入門編(全5回)」

日時:令和6年10月3・17・31日,11月14・28日

☆「明日から使える 静脈カテーテル管理～CVポート・PICC・エコーガイド穿刺～」

日時:令和6年12月14日 13:00～17:00

☆ 家族看護研修「タイトル未定」

日時:令和7年2月11日予定

